

中高一貫校での学び

—文化学園長野中学・高等学校における
アクティブラーニング—

中村 祐貴

中高一貫校に身を置く私から、現在の教育活動に関する所感ならびに当校の教育実践について、述べさせていただきます。

「アクティブラーニング」（以下AL）という言葉があらちらこちらで聞かれます。ALは「生徒主体の学び」「活動的学び」などとさまざまな言い回しがなされていますが、要は、教科書を教師が解説し生徒に知識を注入していくのではなく、教師の仕掛けによって生徒が思考したり表現したりすることによって授業が進んでいく、というのがALの一つの定義だと思います。

なぜ、いまALが必要か、という問いについては、一つは「二〇二〇年大学入試改革」が目前に迫っていることにあります。現中学三年生が最初に直面するこの改革

では、センター試験国語の問題等に記述式問題が導入されることは、報道の通りです。

この記述式も従来型の記述式ではなく、新しいタイプの記述式問題となるようです。従来型記述式では、「傍線部が意味する内容（筆者の考えなど）を説明する問題」を例として、類似の問題が非常に多く出題されています。このタイプの記述式では、筆者の考えを理解したのち、それをわかりやすく表現することが正答につながります。これに対して、新しいタイプの記述式では、新聞記事や統計資料等を読んで内容を理解したのち設問に対し自分の考えを表現する、といった問題になります。

ここから、新たなタイプの記述式に対しては、筆者の考えを読み取るための技術だけではなく、問いに対する自分の解答を論旨に従って表現する「力が必要となります。したがって、授業において自分の考えを表現する機会も必要となってきます。これがALを必要としている理由なのです。

そこで、文化学園長野中学・高等学校においては、「知識構成型ジグソー法」という手法を用いて、ALを行っています。「知識構成型ジグソー法」は、以下のステップで行われます。

へ知識構成型ジグソー法

① 問いにたいする自分の考えを意識化。

② 同じ資料を仲間同士で読み、「専門家」となる（エキスパート活動）。

③ 違う資料を読んだ者同士で交流し、「専門家」として自分の意見を表明する。また、他の人の意見を聞き自分の意見と違う点や共通点、自分の表明した意見の補強や内省をする（ジグソー活動）。

④ そのグループの中で意見をまとめ、全体に表明する。ほかのグループでも同じように意見をまとめているが、それぞれのグループで少しずつ差異が出てくる（クロストーク活動）。

⑤ 最後に自分でもう一回意見を組みなおしてみる。①で答えたものよりも、思考や表現がより深められている。

現在、文化学園長野中学・高等学校では、東京大学 CoREF と連携をして、この「知識構成型ジグソー法」の推進を行っています。また、校内でもコアチームと呼ばれる「知識構成型ジグソー法」の実践を推進するグループにおいて、日々の授業研究を行っています。

私も少しずつ取り組みをしていこうと試行錯誤の毎日ですが、なかなかうまくいかないことも多いです。日々

の勉強を大切に、教師として成長をしていきたいと思っています。

（なかむら ゆうき 文化学園長野中学・高等学校）